

# 播磨社会復帰促進センター

Harima Rehabilitation Program Center





# 国民に理解され、 支えられる刑務所を目指して——

播磨社会復帰促進センターは、平成19年4月に、PFI手法と構造改革特区制度を活用した官民協働の刑務所として、兵庫県加古川市に誕生しました。

当センターは、建物を国が整備し、施設運営の相当部分を民間事業者へ委託する新しいタイプの刑務所です。民間のアイデアやノウハウを活用することで、受刑者の矯正指導や職業訓練を充実させ、社会復帰・社会定着を支援していきます。

また、地域資源の活用を図りながら、国と事業者が協力して刑務所の運営を行うことで、より効果的、効率的な受刑者処遇の実現を目指しています。

# 地域との共生

加古川市が構造改革特区の認定を受けたことから、当センターの運営においては大幅な民間委託が可能となりました。

これにより、地域雇用機会の拡大、地域社会資源の有効活用が見込まれ、刑務作業を通して地元産業の活性化などが期待されています。

播磨社会復帰促進センターは、地域社会に貢献し、地域との共生を図りつつ、官・民・地域が三位一体となり、客観性・透明性を確保しながら運営を行います。



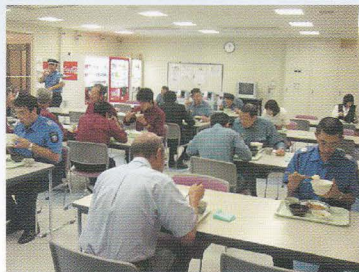
職員点検



庁舎夜景



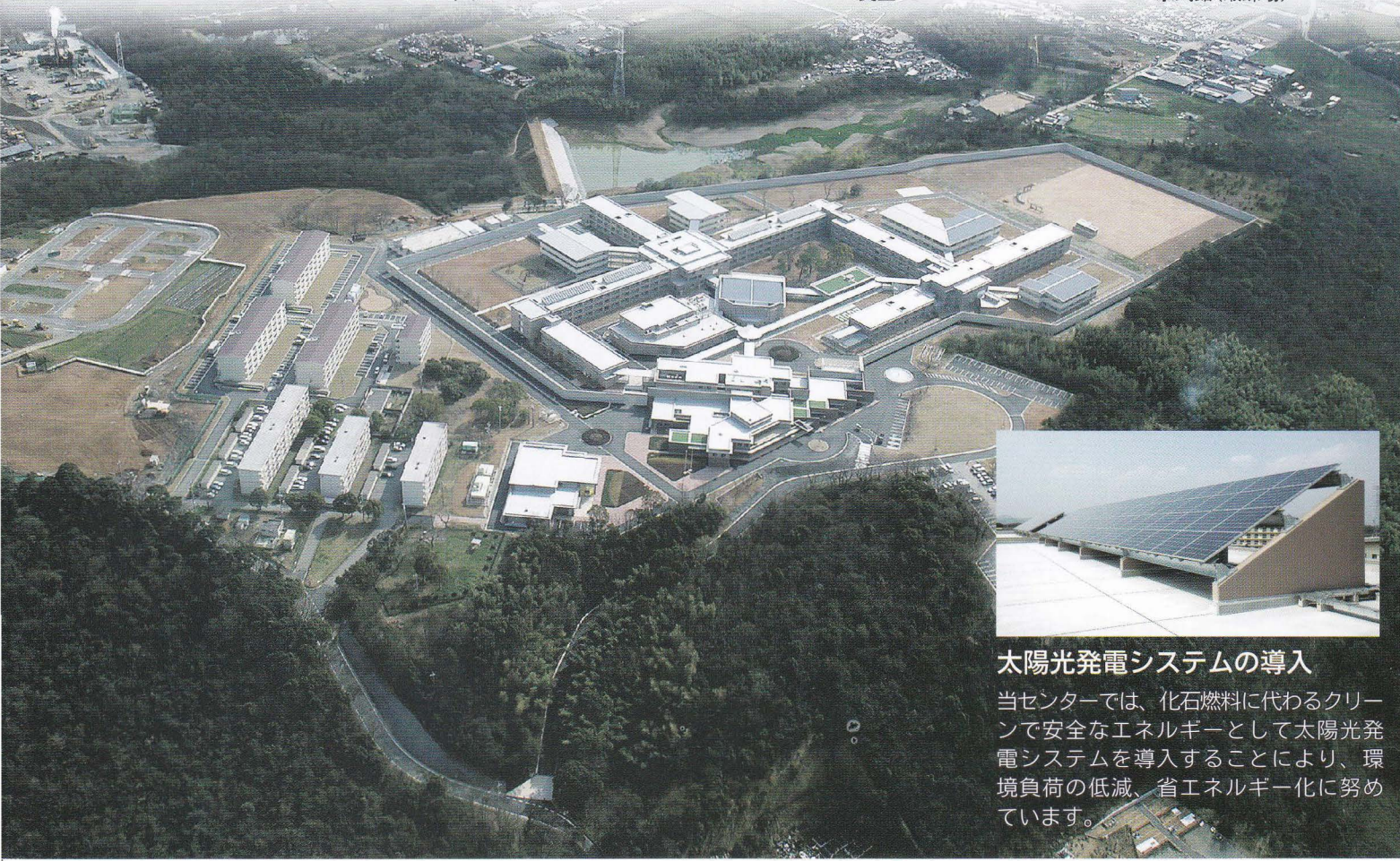
エントランス



食堂



宗武館(鍛錬場)



## 太陽光発電システムの導入

当センターでは、化石燃料に代わるクリーンで安全なエネルギーとして太陽光発電システムを導入することにより、環境負荷の低減、省エネルギー化に努めています。



# 施設の沿革

- 平成17年10月 庁舎等新営工事の着工
- 平成18年9月 PFI方式の導入決定
- 平成19年3月 庁舎等新営工事の完成
- 3月 構造改革特区の認定(加古川市)
- 4月 センター開庁
- 10月 PFI事業運営開始

# 施設の概要

- 所在地 兵庫県加古川市八幡町宗佐544
- 敷地総面積 126,000㎡ (阪神甲子園球場の約3倍の広さ)
- 建物延床面積 47,000㎡
- 総工費 121億3,500万円
- 収容定員 1,000名 (うち特化ユニット120名)
- 収容対象者 (一般) ①刑務所への収容が初めての男性受刑者であること  
②日本国籍を有していること、または日本国内で長期間の生活経験を有していること  
③犯罪傾向が進んでいないこと  
④刑の執行期間がおおむね1年以上8年未満であること  
⑤26歳以上であること  
⑥集団生活に順応できること  
⑦心身に著しい障害がないこと
- 収容対象者 (特化ユニット) 上記の①から⑤を満たし、かつ、精神疾患・知的障害を有する者で、社会適応のための訓練を必要とする者
- 職員数 国：150名 民間：200名

播磨社会復帰促進センター  
Hammie Rehabilitation Program Center

## 官民協働による 先進の警備体制

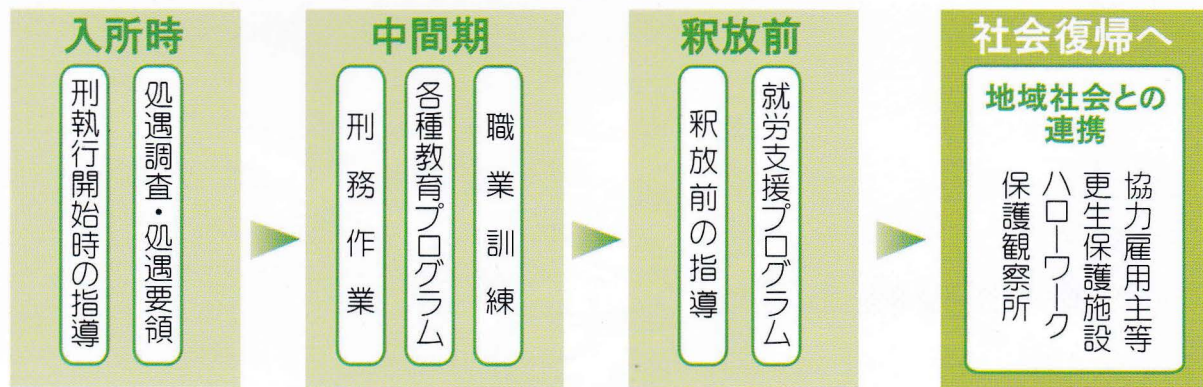
当センターでは、最新警備機器を導入することで、効率的な警備体制を構築しています。また、業務間の隙間をなくす適正な人員配置を行い、設備と人の両輪をもって保安に万全を期しています。



金属探知ゲート

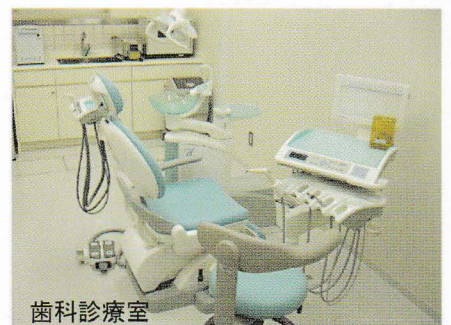
## 受刑者処遇の流れ

受刑者の資質及び環境に応じて、本人の自覚のもと、改善更生への意欲を喚起し、社会生活に適応する能力の育成を図ります。



## 充実した医療体制

医務課診療所は国が主体となって運営し、常勤医師を含め十数名の医療スタッフ(民間職員を含む。)が受刑者の健康管理、診療に従事しています。健康診断では、検査内容を充実させ、医師による的確な診療を行うことによって受刑者の疾病の早期発見に努めるとともに、健康管理体制の充実強化を図っています。



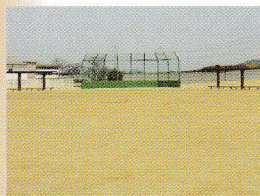
歯科診療室



# 受刑者の一日

受刑者の処遇は、「動作時限」によって規則正しく行われます。

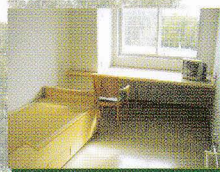
平日は基本的に刑務作業や職業訓練を実施していますが、月に4日は「矯正指導日」として改善指導や教科指導を集中的に行います。



運動場



庭園



釈放前寮



大浴場



洗濯工場



体育館



炊場



共同室

## 改善更生と再犯防止に資する教育・分類

国と、民間の教育・分類業務を担当する「社会復帰促進部」(組織図参照)が連携しつつ、処遇調査(診断)と矯正指導(処方)を一体化させ、受刑者個々人に必要な教育を行っています。入所から出所までを一連の教育期間として4期に分け、個々の受刑者の問題性やニーズに合わせた課題別指導を少人数によるグループワークを中心に、センター独自のプログラムにより実施しています。

	一般受刑者	特化ユニット
<b>入所</b>	<b>I期 考査・刑執行開始時</b> 目的…●改善指導の素地作り ●個々人の問題理解 ●改善に向けての積極的意欲の喚起 ●目標設定 講座…○基礎講座 ○グループミーティング	
<b>中間</b>	<b>II期 中間期前半</b> 目的…●問題解決の実践に向けた学び 講座…課題別指導(性, 飲酒, 薬物, 交通安全, ギャンブルなど)	<b>特化ユニットプログラム</b> ●知的障害、精神疾患のある受刑者の問題性に焦点を当てた教育プログラム ○アニマルセラピー講座 ○クラウニング講座 ○包括的作業療法 ○思考スキルトレーニング(CBT) ○生活技能訓練(SST)
	<b>III期 中間期後半</b> 目的…●社会復帰に向けての学び 講座…課題別指導(被害者の視点, DV, 就労支援など)	
<b>釈前</b>	<b>IV期 釈放前指導</b> 目的…●社会復帰の準備 講座…○釈放前指導	
<b>保護</b>		



多目的ホール



教室

## 円滑な社会復帰に向けた職業訓練

出所後の受刑者の社会復帰がスムーズにいくよう、様々な分野での資格取得を含む職業訓練を実施しています。



職業訓練棟



医療・介護系



サービス系



パソコン系



技能系





# 充実した特化ユニットのプログラム

精神疾患・知的障害のある受刑者の教育では、アニマルセラピー等により、社会適応力の向上を目指しています。また、作業療法を取り入れつつ、農業園芸科及び窯業科などの職業訓練を実施しています。



アニマルセラピー



窯業科作品



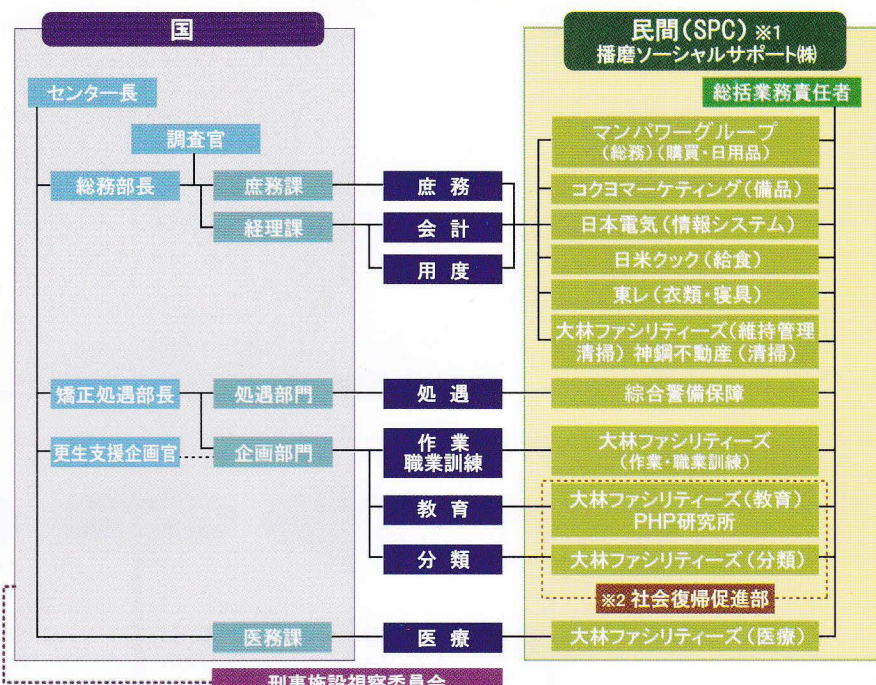
農耕地

## 刑務所運営の新しいかたち PFI刑務所

PFI (Private Finance Initiative) とは、公共施設の建設、維持管理、運営等を民間の資金やノウハウを活用して行う手法で、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を目標としています。全国には現在4か所のPFI刑務所があり、当センターでは施設の管理、収容監視、警備、受刑者処遇の一部を民間企業に委託しています。



### 組織図

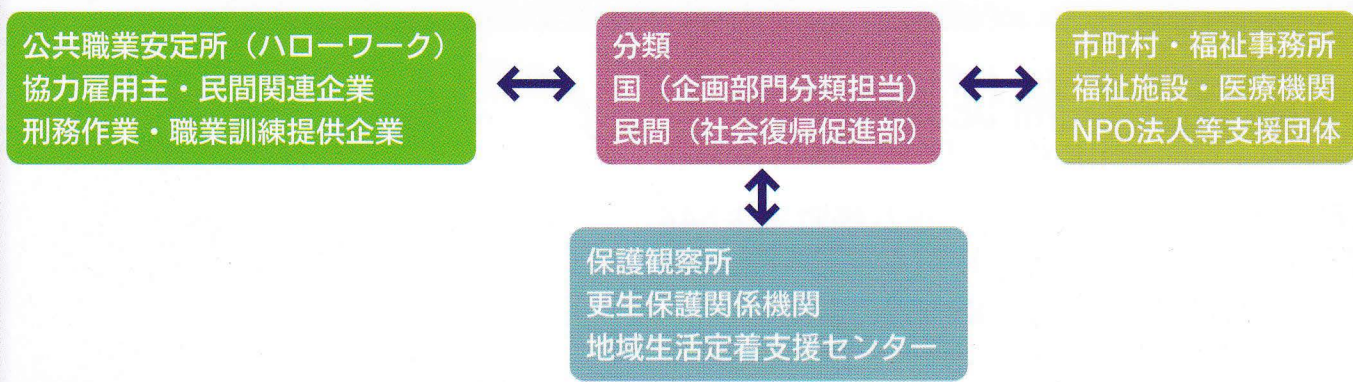


※1 SPCとは、「特別目的会社」(Special Purpose Company)の略称です。当センターの運営を行うために、本事業を落札した播磨大林・ALSOKグループを構成する各企業の出資により、SPCである「播磨ソーシャルサポート株」が設立されました。

※2 「社会復帰促進部」は民間事業者へ委託された教育業務と分類業務を一体的に遂行することを意図して設立された当センター独自の民間組織です。

## 出所後の保護・就労支援

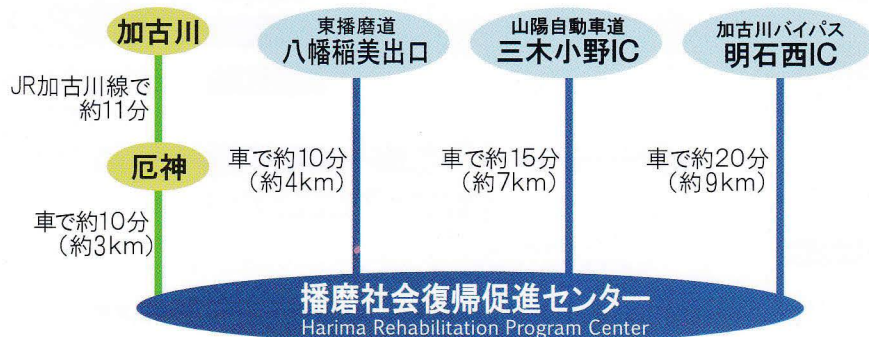
再犯防止のためには出所後の就労と社会定着が重要な要素であり、その支援のために、国の分類担当と民間の社会復帰促進部とが協働して、更生保護関係機関や公共職業安定所等と緊密に連携しています。特に精神疾患・知的障害のある特化ユニット受刑者や高齢受刑者については、福祉との連携を重視し、行政機関、福祉機関、医療機関のほかNPO法人等支援団体等も含めた幅広いネットワークを活用し、その社会定着に向けて努力しています。こうした業務の円滑な推進のために、民間の社会復帰促進部では社会福祉士、精神保健福祉士等の専門家を採用しています。







### 当センターへのアクセス



## 加古川市

加古川市は、播磨平野の東部を流れる兵庫県下最大の一級河川「加古川」の下流に位置し、温暖な気候に恵まれ、古くから山陽道の宿場町として発展してきました。海岸線には我が国有数の鉄鋼工場があり、播磨臨海工業地帯の一翼を担っています。市内には、国宝や重要文化財などを有する由緒ある神社や仏閣が存在するほか、「播磨富士」として知られ頂上からは播磨灘が一望できる高御位山（たかみくらやま）など、自然と文化の香り高い街となっています。また、最近では加古川の流域や河川敷においてレガッタやマラソンなどの大会が盛んに行われ、ウェルネス都市としての取組も活発に行われています。



## 播磨社会復帰促進センター Harima Rehabilitation Program Center

〒675-1297 兵庫県加古川市八幡町宗佐544  
TEL 079-430-5503(代表) / FAX 079-430-5508  
<http://www.harima-rpc.go.jp/>